

伝統の技術・技能が生きる仕事を

「競技大会への挑戦などでせつかく高い水準のレベルに達しても、それを十分に生かせる仕事が少ない」という声をよく聞きます。この悩みにどう答えたらいいか。11月



3日（日）開催の第21回公開講座「木造建築の未来をひらく」で基調講演していただく後藤治 工学院大学教授・理事長に聞きました。

第21回公開講座 基調講演 後藤治さんに聞く

後藤さんは視野を広げ柔軟な発想で仕事を創造する取り組みを強調しました。

「地域循環型の住まいづくりで町の工務店を活性化すること、マンションなど集合住宅の内装やインテリアで木のぬくもりや木組みの美しさを取り入れるプランを提案し普及を図ること、公共建築に地域の職人の技を使え、という運動を起こすことーの3つがまず思いうかびます」。

「さらに、Do It Yourself（自分でやろう＝日曜大工）をもっと広げるべきです。職人さんの中には素人の参入に抵抗を示す人もいますが、細かいところで難しいのが建築。体験する人が増えると、職人の値打ちが光っていきます」。

公開講座では、本校の卒業生とのクロストークも交え、このテーマを深めます。ご期待ください。



授業は伏図を記載する「板図」から

授業見学 大歓迎です

第24期 1年生 9月の連続授業

「木造軸組み実習」

9月6日～毎週金・土曜、江東実習場

主流は軸組み構工法

「平成29年度住宅着工統計」によると、一戸建の構造・工法別割合は「在来木造」が76%を占めています。柱と梁で構造をつくる軸組み構工法

が現代でも住宅建築の主流ということですが（同統計では「2×4（ツーバイフォー）」は約11%）。本校では、手道具・手刻みを基本に、1年次の夏から秋にかけては軸組みの小屋を、秋から冬にか

けては2階建て木造住宅の躯体（くたい）づくりに取り組みます。

木造軸組み工法の住宅における機械プレカット材使用の割合は平成26

全体を見通す力を

この教育の値打ちは建て売り住宅が仕事の中心の研修生派遣事業主も認めています。「現場で教えられないからこそ、カレッジ

からこそ、カレッジ

東京建築カレッジでは、伝統構法を取り入れた2階建て木造住宅をつくる実習棟実習の前に、入門編として小屋をつくりまします。伏図をまとめた板図の作成から始めます。柱と梁（はり）を組み合わせて構造をつくる日本の木造建築の基本を学ぶ授業です。今年度は猛暑を避け、9月に毎週金土曜の連続授業で進めます。見学をお勧めします。



昨年の木造軸組み実習の様子

年度で90%に達しています。あらかじめ用意された材料の組み立てが中心の現場作業が多い今、構造の理解、材料の点検と墨付け、刻みから手掛ける経験はとても貴重です。

「木造軸組み実習」全8日 【建築設計製図Ⅲ】

第1週 9月 6日(金)、9月 7日(土)
第2週 9月13日(金)、9月14日(土)
第3週 9月20日(金)、9月21日(土)
第4週 9月27日(金)、9月28日(土)
午後1時～午後6時20分、江東実習場

見学ご希望の方はご連絡ください。学校全体の説明資料も用意します。

で学ぶ意義があります。この経験は住宅建築の専門家として全体を見通す力を養うために必要なのです」

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！

Tel
03-
5950-1771

東京建築カレッジと 一緒に新人の 採用&教育を！

東京建築カレッジは、各事業所の現場で実務を経験すると共に、学校では建築の基礎を学科授業と実技実習を通して学びます。建築の世界でプロフェッショナルをめざす仲間との出会いも魅力です。

東京建築カレッジを新人採用とその教育に活用する中小建設事業主を募集しています。優秀な人材獲得をめぐるための大手企業との激しいたたかいに打ち勝つために、本校の教育制度を利用してください。

「東京建築カレッジ無料職業紹介所」登録事業所になれば、全国の高校や大学にたいし、業務時間中に学費全額事業主負担で職業訓練を受けさせる優良事業所であることをアピールしながら採用活動を進めることができます。

活用事例を紹介しながら説明いたします。お気軽にご連絡ください。

電話03-5950-1771

担当 吉川

全国青競、技能五輪出場選手を激励

東京建築カレッジは季節の節目に交流イベントを実施しています。8月24日（土）は恒例の納涼会が開かれ、1年生（24期生）、2年生（23期生）、講師・指導員、理事・事務局合わせて約50人が懇親しました。



技能五輪出場の小坂哲平さん（22期生）
左は、西岡貴之教務部長

8月24日（土） 納涼会レポート

今回は2年生のクラスが司会進行、会計、買い出し、会場設営の段取りを話し合って運営しました。開会後「食べ物を追加しなきゃ」などのドタバタもありましたが、組織運営学習の一環と考えて任せています。

1年生、2年生合同のクギの早打ち競争などの余興の後、9月の「全国青年技能競技大



会」、11月の「技能五輪全国大会」の出場選手の紹介があり、全国青競出場の高田慎太郎さん（21期生）技能五輪出場の小坂哲平さん（22期生）、木下絢加さん（同）が決意表明しました。クギの早打ち競争には片岡茂樹先生も参戦。

「木の建築の奥深い可能性を感じる」 と、須藤 学さん

今年度の新入生のクラスに、今春、本校の事務局・教務に着任した須藤学 事務局次長が参加しています。「建築カレッジを熟知するには授業を体験するのが一番」という方針で業務として行っているもの。学科と実技実習のすべてをクラスメイトと一緒に受けながら、この学校の存在意義、教育の値打ちを日々実感しているようです。

「材料実験では一般常識では想像できない物性を知り、手道具による実技実習は加工時の手ごたえで材料の特性を学ぶことができます。手刻みの教育にこだわる意味もわかりました」と須藤さん。

「何よりも木の魅力、木の建築の奥深い可能性を実感しています。大学の建築学科の学生に卒業後の進路として勧めたいし、建築に少し関心のある未経験の若者にも入学を働き掛けたい」と来期生の募集活動にも意欲を見せています。



授業に参加中の須藤さん。本校の母体の東京土建各支部からミニ建築カレッジの授業の魅力を感じてくれるそうです。

新事務局次長、授業に参加中！